



令和3年10月29日判決言渡 同日原本領収 裁判所書記官

運転免許取消処分等取消請求事件

口頭弁論終結日 令和3年8月24日

判 決

5

原 告

同訴訟代理人弁護士

大阪府中央区大手前2丁目1番22号

被 告

同代表者兼処分行政庁

同委員会代表者委員長

同訴訟代理人弁護士

同

同

同指定代理人

主

山 中 理 司

大 阪 府

大 阪 府 公 安 委 員 会

高 瀬 桂 子

井 上 隆 晴

井 上 卓 哉

麻 生 川 典 晃

別紙1指定代理人目録のとおり

文

1 原告の請求をいずれも棄却する。

2 訴訟費用は原告の負担とする。

事 実 及 び 理 由

20 第1 請求

1 大阪府公安委員会が令和元年10月23日付けで原告に対してした、運転免許を取り消す処分を取り消す。

2 大阪府公安委員会が令和元年10月23日付けで原告に対してした、同日から[ ]間を運転免許を受けることができない期間として指定する処分を取り消す。

25

第2 事案の概要

本件は、[ ] 運転免許を受けていた原告が、普通乗用自動車（以下「原告車」という。）を運転中、信号機により交通整理が行われている交差点（以下「本件交差点」という。）に進入するに際し、対面信号機が赤色信号を表示しているのにこれを殊更に無視し、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する行為により、同交差点東側に南北方向に設置された横断歩道（以下「本件横断歩道」という。）上を進行してきた自転車に自車を衝突させ、同自転車の運転者（以下「本件被害者」という。）に [ ] 間の加療を要する傷害を負わせたという違反行為（「危険運転致傷等（治療期間 [ ] 以上）」）。上記交通事故を、以下「本件事故」という。）をしたことを理由として、大阪府公安委員会から、令和元年10月23日付けで、上記運転免許を取り消し、運転免許を受けることができない期間を同日から [ ] 間と指定する旨の各処分（以下、併せて「本件処分」という。）を受けたことについて、本件処分の理由とされた危険運転致傷罪に当たる行為は認められないなどと主張して、本件処分の取消しを求める事案である。

## 1 関係法令の定め

関係法令の定めは、別紙2「関係法令の定め」のとおりである（同別紙中で定めた略称は、以下においても同様に用いる。）。

## 2 前提事実（争いのない事実、顕著な事実並びに掲記の証拠及び弁論の全趣旨により容易に認められる事実）

### (1) 原告

原告は、[ ] 大阪府公安委員会から、第一種運転免許のうち [ ] に係る運転免許証の交付を受けた（以下、同運転免許証に係る免許を「本件免許」という。）（甲30，甲38）。

### (2) 本件事故の状況等

原告は、[ ] 頃、[ ] に向かうため、普通乗用自動車 [ ]

原告車。GPS機能付きのドライブレコーダーを装着していた。)を運転し、先の(本件交差点。本件交差点は、信号機による交通整理が行われている交差点である。)を東から進入して北に右折するに際し、折から同交差点東側に設置された本件横断歩道上を南から北に向け進行してきた本件被害者の運転する自転車の右前部に原告車の左前部を衝突させて、自転車もろとも本件被害者を転倒させ、本件被害者に(の傷害を負わせた(本件事故) (甲2の1, 甲3, 甲8, 甲9, 甲12の1, 弁論の全趣旨)。

### (3) 刑事処分等

大阪府警察署司法警察員は、本件事故につき、過失運転致傷被疑事件として捜査を開始し、その後、令和元年5月29日、罪名を過失運転致傷罪から危険運転致傷罪に切り替え、危険運転致傷被疑事件として所要の捜査を行い、同年9月2日、これを大阪地方検察庁検察官に送致した(甲21, 甲26, 甲28)。

(甲2の2)。

### (4) 本件処分等

ア 大阪府公安委員会は、令和元年10月23日、原告は、本件事故において、特定違反行為である危険運転致傷罪(自動車運転死傷行為処罰法2条5号)に当たる行為をしたとの認定を前提に、同特定違反行為に係る累積点数が(点(危険運転致傷等(治療期間(以上)))となり、原告には前歴がないことから、法103条2項5号及び同条8項並びに令38条7項(の各規定に該当するとして、法104条1項の規定に基づく意

見の聴取を行った上、同日、原告に対し、本件免許を取り消し、欠格期間を同日から 間と指定する旨の各処分（本件処分）をした（甲 29 から 31 まで（枝番を含む。）、甲 38、弁論の全趣旨）。

イ 原告は、令和 2 年 1 月 20 日、本件処分を不服として、大阪府公安委員会に対し、行政不服審査法に基づく審査請求をした。

大阪府公安委員会は、令和 3 年 1 月 13 日付けで、原告に対し、上記審査請求を棄却する旨の裁決をした。

（甲 35）

ウ 原告は、令和 3 年 2 月 22 日、本件訴えを提起した（顕著な事実）。

### 3 争点

(1) 危険運転致傷罪（自動車運転死傷行為処罰法 2 条 5 号（人を負傷させた場合）の罪）に当たる行為の有無（争点 1）

(2) 本件処分に裁量権の範囲の逸脱・濫用があるか否か（争点 2）

### 4 争点に関する当事者の主張の要旨

(1) 争点 1（危険運転致傷罪に当たる行為の有無）について

（被告の主張の要旨）

ア(ア) 原告は、本件交差点東側に設けられた停止線（以下「本件停止線」という。）手前約 21.2 m の地点において、対面信号機（以下「本件信号機」という。）が赤色に変わったのを認め、かつ同地点において停止線手前で止まることができたにもかかわらず（上記地点における原告車の走行速度は時速約 15 km であった。）、これを無視して本件交差点に進入している。

そうすると、原告は、「赤色信号…を殊更に無視し」たといえる。

イ(イ) 原告は、捜査段階における上記趣旨の供述や指示説明には信用性がないと主張するが、原告の捜査段階の供述は、ドライブレコーダーの精査結果と合致しており、警察官が誘導して調書を作成した事実もないから、

原告の主張は失当である。

イ 本件交差点東側には本件横断歩道が設けられており、本件横断歩道には横断する歩行者や軽車両が通行するところ、本件横断歩道手前（東側）には■があり、原告車のように本件交差点に東側から進入する車両にとっては、進行方向から本件交差点で南北に交差する道路（以下「南北道路」という。）及び歩道の見通しが妨げられ、歩行者等の発見が遅れる可能性の高い危険な場所である。

そして、時速約20kmで走行する自動車（本件被害者との衝突時における原告車の走行速度は時速約22kmであった。）が上記歩行者や軽車両などと衝突すれば、歩行者や軽車両の運転者に重大な結果が生じる可能性が高いことは明らかであり、実際、本件では、本件被害者に■間の加療を要する傷害が生じるという重大な事故が発生している。

そうすると、本件交差点に時速約20kmで進入した原告の行為は、「重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転」する行為に当たる。

ウ したがって、原告は、本件事故において、危険運転致傷罪に当たる行為をしたといえる。

（原告の主張の要旨）

ア(ア) 原告が、本件信号機が赤色信号を表示していることに気付いたのは、本件停止線手前約10.5mから本件停止線の間の地点である。それより手前の地点でそれに気付かなかったのは、■

■  
■ 本件事故の際、原告は前を向いて運転していたから、本件信号機の黄色灯火及び赤色灯火が視界に入っていたはずであるが、なぜか本件事故の現場の手前まで赤色灯火に気付かなかった。

そして、原告は、■

酒や薬などの影響下にある人と同様に制動措置が遅くなったと考えられ、少なくとも反応時間として約2秒は必要であったといえることを踏まえると、原告車（上記地点における速度は、時速約20kmであった。）の停止距離は、約13.36mであり、原告は、本件信号機が赤色信号を表示していることに気付いた時点では、原告車を停止線で停止させることが不可能であった。

そうすると、原告は、「赤色信号…を殊更に無視し」とはいえない。

(イ) a 原告は、令和元年5月15日の実況見分において、本件信号機が赤色信号を表示していることに気付いた地点として、本件停止線手前約21.2mの地点を指示しており、同月29日の取調べにおいて、上記実況見分の結果に沿う供述をしている。

しかし、原告は、

[REDACTED]

原告は、この

ような理由から、警察官の誘導に従って上記の指示説明や供述をしたにすぎない。このような捜査は、原告の無知に乗じて行ったものである。

なお、原告車に搭載されていたようなGPS機能付きのドライブレコーダーの場合、ドライブレコーダーの表示速度は、当該自動車の直近の移動距離を経過時間で除したものであり、ドライブレコーダーの画像（甲10）に表示された速度も、その約1秒前のものを表示して

いると考えられるし、表示されている位置関係（ドライブレコーダーのGPS機能が計測し、ドライブレコーダー画像上に表示された緯度や経度）もずれていると考えられる。甲10添付の写真番号8から10までで原告車の位置に変化がないことは、そのことを示している。

5 本件被害者の自転車の車高は0.9mであるのに、原告車のボンネットの1.02mの高さに擦過痕があることは（甲9）、原告車が急ブレーキを掛けてノーズダイブ（急ブレーキを掛けたことにより車両前方が沈み込むこと。甲39）が生じたことを示している。しかるに、原告の警察官調書には原告が急ブレーキを踏まなかったとの供述が録  
10 取されている（甲25の1, 2）。

b 原告の検察官調書には、原告が本件交差点の信号が全赤状態となっている間に本件交差点を通過しようとした旨の供述が記載されている。

しかし、時速20kmの場合、1秒間に進行する速度は約5.6mにすぎないところ、本件交差点の全赤状態は3秒間しかないから、本件交差点の直前における原告車の速度（時速22km）を前提としても、20m以上の道幅がある本件交差点を全赤状態で通過することは到底不可能である。原告は、  
15 [REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]

20 [REDACTED] と思ったことから、上記のような供述をしたすぎない。

c 時速約35kmないし38kmで走行していた被告人車両の対面信号機が赤色表示になってから12秒後に発生した交通事故について、被告人は赤色表示に気付かないまま被害者に気付いたとの事実を認定した刑事判決（大阪高裁令和2年7月3日判決、甲46）があるから、  
25 本件事故において原告は赤色表示に気付かないまま被害者に気付いたと認定されるべきである。これと異なる原告の供述や指示説明は捜査

機関の作文である。

d そうすると、捜査段階における原告の上記供述や指示説明には信用性がない。

イ 本件事故の発生場所は青色信号に従って直進する車両は自転車しかない横断歩道であるところ、時速30kmで走行する車両にはねられた歩行者の90%は生存すること等に照らせば、横断歩道という具体的な場面に限っていえば、時速20kmの速度は「重大な交通の危険を生じさせる速度」とはいえない。現に、本件事故により、本件被害者は自転車ごと跳ね飛ばされたのではなく、本件事故自体の衝撃は必ずしも大きくない。

そうすると、本件交差点に時速約20kmで進入した原告の行為は、「重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転」する行為に当たらない。

ウ したがって、原告は、本件事故において、危険運転致傷罪に当たる行為をしたとはいえない。

(2) 争点2（本件処分に裁量権の範囲の逸脱・濫用があるか否か）について  
(原告の主張の要旨)

本件事故の発生には、歩行者用の信号機が赤色信号を表示しているときに道路の横断を開始した本件被害者にも一定の過失があること、仮に原告車の走行速度が「重大な交通の危険を生じさせる速度」に当たる速度であるとしても、その下限に近い速度であること、

本件事故に係る刑事処分は、等に照らすと、本件事故における原告の運転行為の実質的な危険性や悪質性の程度は著しく小さく、本件処分は重きに失する。

したがって、本件処分には裁量権の範囲の逸脱・濫用がある。

(被告の主張の要旨)

令に定められている点数制度は、運転者の過去一定期間内の違反や事故に



その行為の危険性に応じた一定の点数を付し、その点数の多寡によって運転者の危険性を評価し、適正かつ効率的な行政措置を講ずるための制度である。

そうであるところ、本件事故では、確かに本件被害者にも青色信号を待たず横断を始めていた落ち度はあるがこの点を過度に重視する必要はなく、上記  
5 点数制度に従った処分をすることが原告の運転者としての危険性の度合いに照らして重きに失すると認められる個別具体的な事情もない。

したがって、本件処分には裁量権の範囲の逸脱・濫用はない。

### 第3 当裁判所の判断

#### 1 認定事実

10 前記前提事実に加え、後掲各証拠及び弁論の全趣旨に照らすと、次の各事実を認定することができる。

##### (1) 本件交差点付近の状況等

ア 本件交差点は、市街地内にある、南北に走る合計5車線（南行き車線につき2車線、北行き車線につき3車線）の道路（南北道路）と、東西に走る西方向への1車線の一方通行道路（以下「本件道路」という。）とが交  
15 差する、信号機による交通整理のされた交差点であり、本件交差点西側には、本件信号機が設置されている。

本件交差点東側（本件道路の本件交差点の手前）には停止線（本件停止線）が設けられており、その付近には■がある。また、南北道路には東  
20 側に歩道が設けられており、本件交差点東側には同歩道用の信号機と本件横断歩道が設置されている。本件停止線から本件横断歩道までの距離は約2.6mである（令和元年5月17日付け実況見分調書（甲13）の現場見取図の⑥地点は本件停止線付近に位置するところ、同地点から本件横断歩道の東端までの距離は、上記⑥の地点から同現場見取図の⑦地点までの距離（5.1m）から、本件横断歩道の東端から同現場見取図の⑦地点までの距離（2.5m）を差し引いた距離とおおむね一致すると認められる。）。  
25

(甲13)

なお、大阪府警察署交通捜査係が令和3年6月17日(木曜日)に行った本件交差点の交通量調査によれば、同日からまでの南北道路の交通量は、車道につき305台(北行き道路につき42台、南行き道路につき263台)であり、上記東側歩道につき、歩行者25名(北行き12名、南行き13名)、自転車14台(北行き5台、南行き9台)であった(乙2)。

イ 本件道路は、アスファルト舗装がされた平坦な直線道路であり、指定速度は時速30kmに制限されている(甲13)。本件道路から南北道路及び南北道路東側歩道の見通しは悪く、本件停止線付近までに至らないと南北道路東側歩道における歩行者や自転車の有無を確認することが困難である(甲10(特に写真番号4)、甲13(特に写真番号第13号及び第14号))。

ウ 本件事故当時の本件信号機の信号サイクルは、青色表示の後、黄色表示が3秒、次いで赤色表示に至るものであるが、その赤色表示の冒頭3秒間は、交差道路の信号表示も赤色(いわゆる全赤)であった(甲5)。

(2) 本件事故直前における原告車の走行状況及び原告の本件信号機に対する認識等

ア 原告車は、(曜日)、からに向かうため、本件道路を東から西に向かって走行していた。天候は晴れであった。なお、原告は、本件事故の約前から、向かうため、本件道路をほぼ毎回利用していた。また、原告は、  
、前方を向いて運転をしていた。(甲25の1、弁論の全趣旨、公知の事実)

イ 原告の視力はであり、本件免許には眼鏡等

（甲24）。

ウ 原告車にはGPS機能を有するドライブレコーダーが設置されており、その記録する時刻は正確であることが確認された（甲10）。本件事故当時にドライブレコーダーに記録された映像は、おおむね以下のとおりであった。

左にシャッターの閉まった店舗 [redacted] ，右に開店中の店舗 [redacted] が見える地点で本件信号機が黄色信号を表示していた（撮影日時・ [redacted] 表示速度・時速12km（画面表示は時速11kmであるが、甲10には時速12kmと記載されており、双方とも争わない。），甲10写真番号1）。

左にセットバックしているビル [redacted] が見える地点で本件信号機が赤色信号を表示していた（撮影日時・同日 [redacted] 表示速度・時速19km，甲10写真番号2）。

左にセットバックしているビル [redacted] の過半が過ぎ去った時点で本件信号機が赤色信号を表示していた（撮影日時・同日 [redacted] 表示速度・時速19km，甲10写真番号3）。

本件停止線が見えず本件横断歩道が間近に見える時点で本件信号機が赤色信号を表示し、本件横断歩道南端付近で歩行者が右足を踏み出して横断し始めた（撮影日時・同日 [redacted] 表示速度・時速22km，甲10写真番号4）。

本件横断歩道が約半分だけ見える地点で本件信号機が赤色信号を表示し、本件横断歩道南端付近で歩行者が横断し、本件被害者が自転車にて北行きに走行していた（撮影日時・同日 [redacted] 表示速度・時速22km，甲10写真番号5）。

本件横断歩道のほぼ全てが見えなくなった地点で本件信号機が赤色信号を表示し、本件横断歩道を北行きに走行した本件被害者が原告車の進行方

向に差し掛かる位置まで達した（撮影日時・同日 [REDACTED]

表示速度・時速22km, 甲10写真番号6）。

本件横断歩道が完全に見えなくなった地点で本件信号機が赤色信号を表示し、本件横断歩道を北行きに走行した本件被害者が原告車の直前に位置し、原告車に跳ね上げられ（撮影日時・同日 [REDACTED] 表示速度・時速22km, 甲10写真番号7, 8), 前方に大きく跳ね飛ばされた（撮影日時・同日 [REDACTED] 表示速度・時速10km, 甲10写真番号9）。

なお、上記各地点から本件信号機までの見通しを妨げるものはなかった（甲10）。

エ 原告車のドライブレコーダーに記録された映像が撮影された地点を現場にて特定すると、おおむね以下のとおりとなる（甲10, 甲13）。

甲10写真番号1の撮影地点は本件停止線39.2m手前（甲13現場見取図の③地点から本件停止線までの距離）である。

甲10写真番号2の撮影地点は本件停止線21.2m手前（甲13現場見取図の④地点から本件停止線までの距離）である。

甲10写真番号3の撮影地点は本件停止線10.5m手前（甲13現場見取図の⑤地点から本件停止線までの距離）である。

甲10写真番号4の撮影地点は本件停止線直前（甲13現場見取図の⑥地点）である。

甲10写真番号7及び8の撮影地点は本件停止線5.1m前方（甲13現場見取図の⑥地点から⑦地点までの距離）である。

甲10写真番号9の撮影地点は本件停止線前方約8.1m（甲13現場見取図の⑥地点から⑧地点までの距離）である。

### (3) 本件事故時の状況

前記前提事実(2)のとおり、[REDACTED]頃、本件

交差点に東から進入した原告車の左前部と、本件南北道路の東側歩道に設置された本件横断歩道を南から北に向けて進行した本件被害者の運転する自転車の右前部とが、出会頭に衝突し、これにより、本件被害者は自転車もろとも転倒し、

5

の傷害を負った。

本件被害者は、

10

(甲17)。

(4) 本件事故に係る捜査経過及び捜査段階における原告の供述状況等

ア 原告は、本件事故直後に現場に臨場した警察官に対し、要旨、無理をして交差点に進入してしまった、本件信号機が赤色信号を表示していることを本件交差点の手前で分かっていたが、信号を無視してそのまま進行してしまった旨の供述をした。なお、本件事故に係る捜査は当初、過失運転致傷被疑事件として捜査が進められていた。(甲23)

15

大阪府警察署司法警察員は、平成31年3月29日、原告車に搭載されていたドライブレコーダーを精査し、その精査結果を、同ドライブレコーダーの記録映像をデジタルカメラで撮影した写真を添付した上、捜査復命書にとりまとめた(甲10)。

20

大阪府警察署司法警察員は、令和元年5月15日、原告の立会いの下、本件事故の現場付近の本件道路等において、実況見分を行った。原告は、同実況見分の中で、本件信号機の黄色灯火を見た地点として、本件停止線手前約39.2mの地点(同月17日付け実況見分調書の現場見取図の③地点)を、本件信号機の赤色灯火を見た地点として、本件停止線手前

25

約21.2mの地点（同現場見取図の④地点）を、本件横断歩道上に歩行者が立ち止まるのを見てアクセルペダルを緩め減速した地点として、本件停止線付近（同現場見取図の⑥地点）を、それぞれ指示説明した。（甲13）

5 イ 原告は、その後、令和元年5月22日、同月29日にそれぞれ大阪府  
警察署司法警察員から、同年9月30日に大阪地方検察庁検察官から取  
調べを受けた。原告は、同年5月22日の司法警察員による取調べにおい  
て、本件信号機が赤色信号を表示しているのを認識しながら、アクセルペ  
ダルを踏み込み、本件交差点に進入した旨の供述をした。また、同月29  
10 日の司法警察員による取調べにおいて、これと同旨の供述をするともに、  
その理由について、本件信号機が赤色信号を表示しても、全赤が3秒ある  
から、本件交差点を通過することができると考えた旨の供述をし、本件信  
号機が赤色信号を表示しているのを見た地点について、本件停止線手前約  
21.2mの地点（同月17日付け実況見分調書の現場見取図の④地点）  
15 であった旨の供述をした。さらに、同年9月30日の検察官による取調べ  
においても、これと同旨の供述をした。ただし、原告は、同日の検察官の  
取調べにおいて、同年5月29日の司法警察員による取調べに係る供述調  
書では、本件事故を起こす直前、左方から歩行してきて本件横断歩道の手  
前で立ち止まった女性を見て、「危ない。」と思ったが、アクセルを緩め  
20 ただけで、ブレーキを踏み込まなかった旨の記載がされているが、

[REDACTED]

[REDACTED]

実際は、上記女性を見た瞬間に急ブレーキを掛けた  
として、上記の供述調書について、上記の記載についてのみ訂正すること  
25 を求めた。（甲15、甲24、甲25（枝番を含む。））

ウ 本件事故に係る捜査は、前記アのとおり、当初は過失運転致傷被疑事件

として捜査が進められてきたが、同年5月29日、罪名が過失運転致傷罪から危険運転致傷罪に変更され、同年9月2日、危険運転致傷罪の罪名で大阪地方検察庁検察官に送致された（前記前提事実(3)）。そのため、原告は、検察官の上記取調べを危険運転致傷罪の被疑者として受けていた（甲15）。また、原告は、検察官の上記取調べに先立つ、同月21日、大阪府公安委員会から、本件事故により免許の取消事由に該当することになったとして、法104条1項の規定による意見の聴取を同年10月23日に行う旨記載された意見の聴取通知書を受領した。同通知書には、本件事故における違反行為の種別等が、危険運転致傷等に該当する旨の記載があった。（甲29（枝番を含む。））。

(5) 自動車の空走距離、制動距離及び停止距離

空走時間を0.75秒とした場合、乾燥したアスファルト路面（摩擦係数を0.7とする。）における、自動車の空走距離、制動距離、停止距離は次のとおりである（甲39、乙1）。

	空走距離（A）	制動距離（B）	停止距離（A+B）
時速15km	3.13m	1.27m	4.40m
時速20km	4.17m	2.25m	6.42m
時速25km	5.21m	3.51m	8.72m

空走時間を2秒とした場合（したがって、空走距離は空走時間を1秒とした場合（甲39の4枚目参照）の2倍となる。）、乾燥したアスファルト路面（摩擦係数を0.7とする。）における、自動車の空走距離、制動距離、停止距離は次のとおりである（甲39）。

	空走距離（A）	制動距離（B）	停止距離（A+B）
時速15km	8.34m	1.27m	9.61m
時速20km	11.12m	2.25m	13.37m

時速 25 km	13.88 m	3.51 m	17.39 m
----------	---------	--------	---------

## 2 原告が本件信号機の赤色信号の表示を視認した地点に関する事実認定

(1) 前記認定事実を踏まえ、原告が本件信号機の赤色信号の表示を視認した地点について検討すると、前記認定事実(1)イのとおり、本件道路は平坦な直線道路であり、前記認定事実(2)のとおり、本件道路を本件交差点に向かって走行中の自動車の運転者からみて、本件道路の本件停止線手前約39.2mから本件交差点に至るまで、本件信号機の見通しを妨げるものはなく、本件事故時の天候は晴れであり、原告の視力にも問題がないなど、本件事故直前における原告の本件信号機の視認状況は良好である。また、原告は、前方を向いて原告車を運転しており、前方の本件信号機の視認を妨げる事情、すなわち、脇見をしたり下を向いていたりしていたなどの具体的な事情は見当たらない。これらの事情からすると、原告は、本件信号機が赤色信号を表示した時点、すなわち本件停止線21.2m手前の地点（甲10写真番号2、甲13現場見取図の④地点）において、本件信号機の赤色信号の表示を視認したと強く推認することができるところ、そのような推認を妨げるべき合理的な事情は具体的に明らかではない。

したがって、原告が、本件信号機の赤色信号の表示を視認した地点は、本件停止線手前約21.2mの地点であったと認めることができる。

## (2) 原告の主張の検討

### ア 原告車の走行位置及び速度について

(ア) 原告は、①GPS機能付きのドライブレコーダーの表示速度は、当該自動車の直近の移動距離を経過時間で除したものであるため、約1秒ずれている、すなわち、約1秒前の当該自動車の速度を遅れて表示している、②表示されている位置関係（ドライブレコーダーのGPS機能が計測し、ドライブレコーダー画像上に表示した緯度や経度）もずれていると主張する。



(イ) そこで、まず、前記②の主張について検討するに、甲13の現場見取図はドライブレコーダーのGPS機能に頼って作成されたものではないから、そのGPS機能の計測の正確性は、原告車の位置関係を特定する上では何ら問題とはならない。むしろ、甲10添付の各写真から窺われる原告車の進行方向の見通しの状況は、これに対応する甲13の現場見取図から窺われる原告車の進行方向の見通しの状況とおおむね一致していることが認められるから、ドライブレコーダーの記録映像は現場の状況を正確に反映したものであるというべきである。

次に、前記①の主張について検討するに、速度は移動距離を移動時間で除したものであるため、当該時点の速度といっても当該時点から遡った一定時間における移動距離に基づいて測定されたもので、その意味では過去の速度ともいい得るものであることは否めない。ただし、原告の主張を前提としても、ドライブレコーダーで記録された当該時点の速度はその1秒前の速度を示しているという程度の差異があるにとどまる。そして、前記認定事実(2)ウのとおり、甲10写真番号1 ( ) では時速12km、写真番号2及び3 ( ) では時速19km、写真番号4から6まで(午前7時12分39秒) では時速22km、写真番号7及び8 ( ) 被害者に衝突した瞬間である。) では時速22km、写真番号9 ( ) 被害者を跳ね飛ばした瞬間である。) では時速10kmと表示されており、衝突の瞬間までの原告車の速度の上がり方が緩やかなものであったことを踏まえると、1秒前の速度が表示されていることによる誤差の程度は、これがあつたとしても僅かであつたというべきである。

原告の上記主張は採用することができず、そのほか、ドライブレコーダーの測定結果に疑義を挟む事情は見当たらないことを考慮すると、原

告車の走行位置及び速度はドライブレコーダーにほぼ正確に測定されており、信用性が高いというべきである。そして、前記のとおり、甲13の現場見取図は、甲10のドライブレコーダーの記録映像と整合しているから、上記現場見取図も信用性が高いというべきである。

5 (ウ) したがって、原告車の走行位置及び速度は、甲10及び甲13のとおり認められるというべきである。

イ 原告が本件信号機の赤色信号の表示に気付かなかった理由について

10 (ア) 原告は、本件停止線手前約10.5mから本件停止線の間の地点に至るまで、本件信号機が赤色信号を表示していることに気付かなかった、これは、

と主張する。

15 (イ) しかしながら、原告は、本件信号機が黄色信号を表示していた時の原告車の走行位置である本件停止線手前約39.2mの地点から、本件事故時（本件被害者との衝突時）の原告車の走行位置に至るまでの間、前記認定事実(2)のとおり、走行速度を減速させることなく、かえって、時速約12kmから時速約22kmまで加速させている（本件道路は平坦な道路であって、この加速は原告がアクセルペダルを踏んだことによる  
20 と考えられる。）。原告車は、本件停止線手前約39.2mの地点から本件事故（本件被害者との衝突）が発生した地点まで、走行時間として約7秒間を要したことが認められ（甲10）、約7秒間もの間、対面信号機である本件信号機をほとんど確認することがなかったとはおよそ考え難い。これらの事情に照らすと、原告が原告車を加速させたのは、本件信号機の黄色信号ないし赤色信号の表示を認識しながら、その表示に従って本件停止線前で停止するのではなく、本件交差点に早く進入しようとしたというのが、原告の意図であったとうかがわれ、原告が

■とは考え難い。

この点を措くとしても、原告が■理由として原告の主張するところは、■  
■程度であり、どの時点から■  
■どのようなものであり、■  
■など、上記主張を裏付ける具体的な事情は明らかではない。本件事故直前の原告の心理状態が、直線道路において前方を注視し、対面信号機の信号表示を確認するという、自動車運転者にとっての最も基本的かつ容易な作業にさえ注意を払うことができないような特異なものであったことを基礎づけるには至らない。

(ウ) 以上の点に加え、前記認定事実(2)のとおり、原告は、■  
■や、原告は、本件事故の■  
■から本件道路を利用しており、本件交差点の先に本件信号機が設置されていることを十分に把握していたと考えられることも考慮すると、  
■ため、本件停止線手前約10.5mから  
本件停止線の間くらいの地点に至るまで、本件信号機が赤色信号を表示していることに気付かなかったとの原告の主張は、不合理であり、採用することができない。

#### ウ 捜査段階の供述の信用性について

(ア) 原告は、捜査段階の供述は捜査官の誘導によるものであって信用性がないと主張する。しかしながら、前記認定事実(2)のとおり、原告が本件停止線手前21.2m地点にて本件信号機が赤色信号を表示していたことを認識し得た事実、原告の捜査段階の供述に頼ることなく認定することができる。そして、原告が本件信号機の赤色表示を認識していたと強く推認することができ、そのような推認を妨げるべき合理的な事情は具体的に明らかではないことは、前記(1)のとおりである。ただし、原告

の主張に鑑み、原告の捜査段階の供述の信用性について検討すると、以下のとおり、これを信用することができるというべきである。

5 (イ) 原告は、前記認定事実(4)のとおり、実況見分及び司法警察員による取調べにおいて、本件停止線手前約21.2mの地点において、本件信号機の赤色信号を表示しているのを見た旨の指示説明や供述をし、その後の検察官による取調べにおいても、本件信号機の赤色信号の表示を見た地点については、同旨の供述をしており、この点について、本件訴訟前の捜査段階においては、原告の供述等は一貫している。そして、原告の供述等は、ドライブレコーダーの記録から認められる事実(甲10参照。10  
15  
20  
25  
30  
35  
40  
45  
50  
55  
60  
65  
70  
75  
80  
85  
90  
95  
100  
105  
110  
115  
120  
125  
130  
135  
140  
145  
150  
155  
160  
165  
170  
175  
180  
185  
190  
195  
200  
205  
210  
215  
220  
225  
230  
235  
240  
245  
250  
255  
260  
265  
270  
275  
280  
285  
290  
295  
300  
305  
310  
315  
320  
325  
330  
335  
340  
345  
350  
355  
360  
365  
370  
375  
380  
385  
390  
395  
400  
405  
410  
415  
420  
425  
430  
435  
440  
445  
450  
455  
460  
465  
470  
475  
480  
485  
490  
495  
500  
505  
510  
515  
520  
525  
530  
535  
540  
545  
550  
555  
560  
565  
570  
575  
580  
585  
590  
595  
600  
605  
610  
615  
620  
625  
630  
635  
640  
645  
650  
655  
660  
665  
670  
675  
680  
685  
690  
695  
700  
705  
710  
715  
720  
725  
730  
735  
740  
745  
750  
755  
760  
765  
770  
775  
780  
785  
790  
795  
800  
805  
810  
815  
820  
825  
830  
835  
840  
845  
850  
855  
860  
865  
870  
875  
880  
885  
890  
895  
900  
905  
910  
915  
920  
925  
930  
935  
940  
945  
950  
955  
960  
965  
970  
975  
980  
985  
990  
995  
1000  
1005  
1010  
1015  
1020  
1025  
1030  
1035  
1040  
1045  
1050  
1055  
1060  
1065  
1070  
1075  
1080  
1085  
1090  
1095  
1100  
1105  
1110  
1115  
1120  
1125  
1130  
1135  
1140  
1145  
1150  
1155  
1160  
1165  
1170  
1175  
1180  
1185  
1190  
1195  
1200  
1205  
1210  
1215  
1220  
1225  
1230  
1235  
1240  
1245  
1250  
1255  
1260  
1265  
1270  
1275  
1280  
1285  
1290  
1295  
1300  
1305  
1310  
1315  
1320  
1325  
1330  
1335  
1340  
1345  
1350  
1355  
1360  
1365  
1370  
1375  
1380  
1385  
1390  
1395  
1400  
1405  
1410  
1415  
1420  
1425  
1430  
1435  
1440  
1445  
1450  
1455  
1460  
1465  
1470  
1475  
1480  
1485  
1490  
1495  
1500  
1505  
1510  
1515  
1520  
1525  
1530  
1535  
1540  
1545  
1550  
1555  
1560  
1565  
1570  
1575  
1580  
1585  
1590  
1595  
1600  
1605  
1610  
1615  
1620  
1625  
1630  
1635  
1640  
1645  
1650  
1655  
1660  
1665  
1670  
1675  
1680  
1685  
1690  
1695  
1700  
1705  
1710  
1715  
1720  
1725  
1730  
1735  
1740  
1745  
1750  
1755  
1760  
1765  
1770  
1775  
1780  
1785  
1790  
1795  
1800  
1805  
1810  
1815  
1820  
1825  
1830  
1835  
1840  
1845  
1850  
1855  
1860  
1865  
1870  
1875  
1880  
1885  
1890  
1895  
1900  
1905  
1910  
1915  
1920  
1925  
1930  
1935  
1940  
1945  
1950  
1955  
1960  
1965  
1970  
1975  
1980  
1985  
1990  
1995  
2000  
2005  
2010  
2015  
2020  
2025  
2030  
2035  
2040  
2045  
2050  
2055  
2060  
2065  
2070  
2075  
2080  
2085  
2090  
2095  
2100  
2105  
2110  
2115  
2120  
2125  
2130  
2135  
2140  
2145  
2150  
2155  
2160  
2165  
2170  
2175  
2180  
2185  
2190  
2195  
2200  
2205  
2210  
2215  
2220  
2225  
2230  
2235  
2240  
2245  
2250  
2255  
2260  
2265  
2270  
2275  
2280  
2285  
2290  
2295  
2300  
2305  
2310  
2315  
2320  
2325  
2330  
2335  
2340  
2345  
2350  
2355  
2360  
2365  
2370  
2375  
2380  
2385  
2390  
2395  
2400  
2405  
2410  
2415  
2420  
2425  
2430  
2435  
2440  
2445  
2450  
2455  
2460  
2465  
2470  
2475  
2480  
2485  
2490  
2495  
2500  
2505  
2510  
2515  
2520  
2525  
2530  
2535  
2540  
2545  
2550  
2555  
2560  
2565  
2570  
2575  
2580  
2585  
2590  
2595  
2600  
2605  
2610  
2615  
2620  
2625  
2630  
2635  
2640  
2645  
2650  
2655  
2660  
2665  
2670  
2675  
2680  
2685  
2690  
2695  
2700  
2705  
2710  
2715  
2720  
2725  
2730  
2735  
2740  
2745  
2750  
2755  
2760  
2765  
2770  
2775  
2780  
2785  
2790  
2795  
2800  
2805  
2810  
2815  
2820  
2825  
2830  
2835  
2840  
2845  
2850  
2855  
2860  
2865  
2870  
2875  
2880  
2885  
2890  
2895  
2900  
2905  
2910  
2915  
2920  
2925  
2930  
2935  
2940  
2945  
2950  
2955  
2960  
2965  
2970  
2975  
2980  
2985  
2990  
2995  
3000  
3005  
3010  
3015  
3020  
3025  
3030  
3035  
3040  
3045  
3050  
3055  
3060  
3065  
3070  
3075  
3080  
3085  
3090  
3095  
3100  
3105  
3110  
3115  
3120  
3125  
3130  
3135  
3140  
3145  
3150  
3155  
3160  
3165  
3170  
3175  
3180  
3185  
3190  
3195  
3200  
3205  
3210  
3215  
3220  
3225  
3230  
3235  
3240  
3245  
3250  
3255  
3260  
3265  
3270  
3275  
3280  
3285  
3290  
3295  
3300  
3305  
3310  
3315  
3320  
3325  
3330  
3335  
3340  
3345  
3350  
3355  
3360  
3365  
3370  
3375  
3380  
3385  
3390  
3395  
3400  
3405  
3410  
3415  
3420  
3425  
3430  
3435  
3440  
3445  
3450  
3455  
3460  
3465  
3470  
3475  
3480  
3485  
3490  
3495  
3500  
3505  
3510  
3515  
3520  
3525  
3530  
3535  
3540  
3545  
3550  
3555  
3560  
3565  
3570  
3575  
3580  
3585  
3590  
3595  
3600  
3605  
3610  
3615  
3620  
3625  
3630  
3635  
3640  
3645  
3650  
3655  
3660  
3665  
3670  
3675  
3680  
3685  
3690  
3695  
3700  
3705  
3710  
3715  
3720  
3725  
3730  
3735  
3740  
3745  
3750  
3755  
3760  
3765  
3770  
3775  
3780  
3785  
3790  
3795  
3800  
3805  
3810  
3815  
3820  
3825  
3830  
3835  
3840  
3845  
3850  
3855  
3860  
3865  
3870  
3875  
3880  
3885  
3890  
3895  
3900  
3905  
3910  
3915  
3920  
3925  
3930  
3935  
3940  
3945  
3950  
3955  
3960  
3965  
3970  
3975  
3980  
3985  
3990  
3995  
4000  
4005  
4010  
4015  
4020  
4025  
4030  
4035  
4040  
4045  
4050  
4055  
4060  
4065  
4070  
4075  
4080  
4085  
4090  
4095  
4100  
4105  
4110  
4115  
4120  
4125  
4130  
4135  
4140  
4145  
4150  
4155  
4160  
4165  
4170  
4175  
4180  
4185  
4190  
4195  
4200  
4205  
4210  
4215  
4220  
4225  
4230  
4235  
4240  
4245  
4250  
4255  
4260  
4265  
4270  
4275  
4280  
4285  
4290  
4295  
4300  
4305  
4310  
4315  
4320  
4325  
4330  
4335  
4340  
4345  
4350  
4355  
4360  
4365  
4370  
4375  
4380  
4385  
4390  
4395  
4400  
4405  
4410  
4415  
4420  
4425  
4430  
4435  
4440  
4445  
4450  
4455  
4460  
4465  
4470  
4475  
4480  
4485  
4490  
4495  
4500  
4505  
4510  
4515  
4520  
4525  
4530  
4535  
4540  
4545  
4550  
4555  
4560  
4565  
4570  
4575  
4580  
4585  
4590  
4595  
4600  
4605  
4610  
4615  
4620  
4625  
4630  
4635  
4640  
4645  
4650  
4655  
4660  
4665  
4670  
4675  
4680  
4685  
4690  
4695  
4700  
4705  
4710  
4715  
4720  
4725  
4730  
4735  
4740  
4745  
4750  
4755  
4760  
4765  
4770  
4775  
4780  
4785  
4790  
4795  
4800  
4805  
4810  
4815  
4820  
4825  
4830  
4835  
4840  
4845  
4850  
4855  
4860  
4865  
4870  
4875  
4880  
4885  
4890  
4895  
4900  
4905  
4910  
4915  
4920  
4925  
4930  
4935  
4940  
4945  
4950  
4955  
4960  
4965  
4970  
4975  
4980  
4985  
4990  
4995  
5000  
5005  
5010  
5015  
5020  
5025  
5030  
5035  
5040  
5045  
5050  
5055  
5060  
5065  
5070  
5075  
5080  
5085  
5090  
5095  
5100  
5105  
5110  
5115  
5120  
5125  
5130  
5135  
5140  
5145  
5150  
5155  
5160  
5165  
5170  
5175  
5180  
5185  
5190  
5195  
5200  
5205  
5210  
5215  
5220  
5225  
5230  
5235  
5240  
5245  
5250  
5255  
5260  
5265  
5270  
5275  
5280  
5285  
5290  
5295  
5300  
5305  
5310  
5315  
5320  
5325  
5330  
5335  
5340  
5345  
5350  
5355  
5360  
5365  
5370  
5375  
5380  
5385  
5390  
5395  
5400  
5405  
5410  
5415  
5420  
5425  
5430  
5435  
5440  
5445  
5450  
5455  
5460  
5465  
5470  
5475  
5480  
5485  
5490  
5495  
5500  
5505  
5510  
5515  
5520  
5525  
5530  
5535  
5540  
5545  
5550  
5555  
5560  
5565  
5570  
5575  
5580  
5585  
5590  
5595  
5600  
5605  
5610  
5615  
5620  
5625  
5630  
5635  
5640  
5645  
5650  
5655  
5660  
5665  
5670  
5675  
5680  
5685  
5690  
5695  
5700  
5705  
5710  
5715  
5720  
5725  
5730  
5735  
5740  
5745  
5750  
5755  
5760  
5765  
5770  
5775  
5780  
5785  
5790  
5795  
5800  
5805  
5810  
5815  
5820  
5825  
5830  
5835  
5840  
5845  
5850  
5855  
5860  
5865  
5870  
5875  
5880  
5885  
5890  
5895  
5900  
5905  
5910  
5915  
5920  
5925  
5930  
5935  
5940  
5945  
5950  
5955  
5960  
5965  
5970  
5975  
5980  
5985  
5990  
5995  
6000  
6005  
6010  
6015  
6020  
6025  
6030  
6035  
6040  
6045  
6050  
6055  
6060  
6065  
6070  
6075  
6080  
6085  
6090  
6095  
6100  
6105  
6110  
6115  
6120  
6125  
6130  
6135  
6140  
6145  
6150  
6155  
6160  
6165  
6170  
6175  
6180  
6185  
6190  
6195  
6200  
6205  
6210  
6215  
6220  
6225  
6230  
6235  
6240  
6245  
6250  
6255  
6260  
6265  
6270  
6275  
6280  
6285  
6290  
6295  
6300  
6305  
6310  
6315  
6320  
6325  
6330  
6335  
6340  
6345  
6350  
6355  
6360  
6365  
6370  
6375  
6380  
6385  
6390  
6395  
6400  
6405  
6410  
6415  
6420  
6425  
6430  
6435  
6440  
6445  
6450  
6455  
6460  
6465  
6470  
6475  
6480  
6485  
6490  
6495  
6500  
6505  
6510  
6515  
6520  
6525  
6530  
6535  
6540  
6545  
6550  
6555  
6560  
6565  
6570  
6575  
6580  
6585  
6590  
6595  
6600  
6605  
6610  
6615  
6620  
6625  
6630  
6635  
6640  
6645  
6650  
6655  
6660  
6665  
6670  
6675  
6680  
6685  
6690  
6695  
6700  
6705  
6710  
6715  
6720  
6725  
6730  
6735  
6740  
6745  
6750  
6755  
6760  
6765  
6770  
6775  
6780  
6785  
6790  
6795  
6800  
6805  
6810  
6815  
6820  
6825  
6830  
6835  
6840  
6845  
6850  
6855  
6860  
6865  
6870  
6875  
6880  
6885  
6890  
6895  
6900  
6905  
6910  
6915  
6920  
6925  
6930  
6935  
6940  
6945  
6950  
6955  
6960  
6965  
6970  
6975  
6980  
6985  
6990  
6995  
7000  
7005  
7010  
7015  
7020  
7025  
7030  
7035  
7040  
7045  
7050  
7055  
7060  
7065  
7070  
7075  
7080  
7085  
7090  
7095  
7100  
7105  
7110  
7115  
7120  
7125  
7130  
7135  
7140  
7145  
7150  
7155  
7160  
7165  
7170  
7175  
7180  
7185  
7190  
7195  
7200  
7205  
7210  
7215  
7220  
7225  
7230  
7235  
7240  
7245  
7250  
7255  
7260  
7265  
7270  
7275  
7280  
7285  
7290  
7295  
7300  
7305  
7310  
7315  
7320  
7325  
7330  
7335  
7340  
7345  
7350  
7355  
7360  
7365  
7370  
7375  
7380  
7385  
7390  
7395  
7400  
7405  
7410  
7415  
7420  
7425  
7430  
7435  
7440  
7445  
7450  
7455  
7460  
7465  
7470  
7475  
7480  
7485  
7490  
7495  
7500  
7505  
7510  
7515  
7520  
7525  
7530  
7535  
7540  
7545  
7550  
7555  
7560  
7565  
7570  
7575  
7580  
7585  
7590  
7595  
7600  
7605  
7610  
7615  
7620  
7625  
7630  
7635  
7640  
7645  
7650  
7655  
7660  
7665  
7670  
7675  
7680  
7685  
7690  
7695  
7700  
7705  
7710  
7715  
7720  
7725  
7730  
7735  
7740  
7745  
7750  
7755  
7760  
7765  
7770  
7775  
7780  
7785  
7790  
7795  
7800  
7805  
7810  
7815  
7820  
7825  
7830  
7835  
7840  
7845  
7850  
7855  
7860  
7865  
7870  
7875  
7880  
7885  
7890  
7895  
7900  
7905  
7910  
7915  
7920  
7925  
7930  
7935  
7940  
7945  
7950  
7955  
7960  
7965  
7970  
7975  
7980  
7985  
7990  
7995  
8000  
8005  
8010  
8015  
8020  
8025  
8030  
8035  
8040  
8045  
8050  
8055  
8060  
8065  
8070  
8075  
8080  
8085  
8090  
8095  
8100  
8105  
8110  
8115  
8120  
8125  
8130  
8135  
8140  
8145  
8150  
8155  
8160  
8165  
8170  
8175  
8180  
8185  
8190  
8195  
8200  
8205  
8210  
8215  
8220  
8225  
8230  
8235  
8240  
8245  
8250  
8255  
8260  
8265  
8270  
8275  
8280  
8285  
8290  
8295  
8300  
8305  
8310  
8315  
8320  
8325  
8330  
8335  
8340  
8345  
8350  
8355  
8360  
8365  
8370  
8375  
8380  
8385  
8390  
8395  
8400  
8405  
8410  
8415  
8420  
8425  
8430  
8435  
8440  
8445  
8450  
8455  
8460  
8465  
8470  
8475  
8480  
8485  
8490  
8495  
8500  
8505  
8510  
8515  
8520  
8525  
8530  
8535  
8540  
8545  
8550  
8555  
8560  
8565  
8570  
8575  
8580  
8585  
8590  
8595  
8600  
8605  
8610  
8615  
8620  
8625  
8630  
8635  
8640  
8645  
8650  
8655  
8660  
8665  
8670  
8675  
8680  
8685  
8690  
8695  
8700  
8705  
8710  
8715  
8720  
8725  
8730  
8735  
8740  
8745  
8750  
8755  
8760  
8765  
8770  
8775  
8780  
8785  
8790  
8795  
8800  
8805  
8810  
8815  
8820  
8825  
8830  
8835  
8840  
8845  
8850  
8855  
8860  
8865  
8870  
8875  
8880  
8885  
8890  
8895  
8900  
8905  
8910  
8915  
8920  
8925  
8930  
8935  
8940  
8945  
8950  
8955  
8960  
8965  
8970  
8975  
8980  
8985  
8990  
8995  
9000  
9005  
9010  
9015  
9020  
9025  
9030  
9035  
9040  
9045  
9050  
9055  
9060  
9065  
9070  
9075  
9080  
9085  
9090  
9095  
9100  
9105  
9110  
9115  
9120  
9125  
9130  
9135  
9140  
9145  
9150  
9155  
9160  
9165  
9170  
9175  
9180  
9185  
9190  
9195  
9200  
9205  
9210  
9215  
9220  
9225  
9230  
9235  
9240  
9245  
9250  
9255  
9260  
9265  
9270  
9275  
9280  
9285  
9290  
9295  
9300  
9305  
9310  
9315  
9320  
9325  
9330  
9335  
9340  
9345  
9350  
9355  
9360  
9365  
9370  
9375  
9380  
9385  
9390  
9395  
9400  
9405  
9410  
9415  
9420  
9425  
9430  
9435  
9440  
9445  
9450  
9455  
9460  
9465  
9470  
9475  
9480  
9485  
9490  
9495  
9500  
9505  
9510  
9515  
9520  
9525  
9530  
9535  
9540  
9545  
9550  
9555  
9560  
9565  
9570  
9575  
9580  
9585  
9590  
9595  
9600  
9605  
9610  
9615  
9620  
9625  
9630  
9635  
9640  
9645  
9650  
9655  
9660  
9665  
9670  
9675  
9680  
9685  
9690  
9695  
9700  
9705  
9710  
9715  
9720  
9725  
9730  
9735  
9740  
9745  
9750  
9755  
9760  
9765  
9770  
9775  
9780  
9785  
9790  
9795  
9800  
9805  
9810  
9815  
9820  
9825  
9830  
9835  
9840  
9845  
9850  
9855  
9860  
9865  
9870  
9875  
9880  
9885  
9890  
9895  
9900  
9905  
9910  
9915  
9920  
9925  
9930  
9935  
9940  
9945  
9950  
9955  
9960  
9965  
9970  
9975  
9980  
9985  
9990  
9995  
10000  
10005  
10010  
10015  
10020  
10025  
10030  
10035  
10040  
10045  
10050  
10055  
10060  
10065  
10070  
10075  
10080  
10085  
10090  
10095  
10100  
10105  
10110  
10115  
10120  
10125  
10130  
10135  
10140  
10145  
10150  
10155  
10160  
10165  
10170  
10175  
10180  
10185  
10190  
10195  
10200  
10205  
10210  
10215  
10220  
10225  
10230  
10235  
10240  
10245  
10250  
10255  
10260  
10265  
1027

表示していることを視認した後、原告車の速度を時速約12kmから時速約22kmへと時速約10km加速させているところ、原告が、本件交差点の全信号機が赤色信号となる時間や、原告車が本件交差点を通過するのに必要な時間を正確に把握していたとは限らないことに照らすと、  
5 上記の加速が、客観的にみれば原告車が本件交差点の信号が全赤状態となっている間に本件交差点を通過するのに不十分なものであったとしても、それは、原告の検察官調書（甲15）の信用性を否定するものとはならない。

10 (エ) 原告は、前記認定事実(4)の捜査段階の指示説明や供述は警察官の誘導に従ったものであって信用することができないと主張し、誘導に従った理由として、

[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]などと主張する。

15  
20 しかしながら、前記(イ)のとおり、原告の捜査段階の指示説明や供述は、本件信号機の信号表示を見た地点という重要な部分で一貫しており、客観的事実とも符合するものである。原告の主張する警察官の誘導とは、本件事故について出合い頭の交通事故として取り扱うとの説明を繰り返していたというものや、実況見分に先立ちドライブレコーダーの動画を見せたなどというものとどまり、これらの警察官の言動等が、原告に虚偽の供述を誘発するような不当な心理的な影響を与えるものとは評価し難い。

25 原告は、

[REDACTED]旨主張するが、原告は、前記認定事

5 実(4)ウのとおり、検察官の取調べに先立ち、大阪府公安委員会から、本  
件事故における違反行為の種別等を危険運転致傷等とする免許の取消し  
に係る意見の聴取通知を受領しており、かつ、検察官の取調べは、過失  
運転致傷被疑事件ではなく危険運転致傷被疑事件として行われたのであ  
10 るから、原告は、遅くとも検察官の取調べの時点においては、本件事故  
について、危険運転致傷罪で処罰される可能性も否定できないことや、  
原告が同罪に当たる行為をしたことを前提とする行政処分を受ける可能  
性があることを十分に認識していたといえる。それにもかかわらず、原  
告は、検察官の取調べにおいても、本件信号機の信号表示を見た地点等  
15 について、警察官の取調べにおける供述内容と同旨の供述をしていたの  
であるから、原告の上記主張は採用することができない。

原告は、衝突するまで急ブレーキを掛けていないとの警察官調書は、  
客観的事実に反するものであり、捜査機関の作文であるとも主張するが、  
前記認定事実(4)イのとおり、検察官による取調べにおいて、警察官調書  
15 の記載について、本件事故直前に急ブレーキを掛けたという自己に有利  
な内容に訂正することを求めているのであり、原告の捜査段階の供述調  
書が、警察官等の捜査機関に誘導されるままに作成されたもので当時の  
自らの認識と異なる内容の供述を強要されたものであるとはいえない。

20 (オ) 原告は、時速約35kmないし38kmで走行していた被告人車両の  
対面信号機が赤色表示になってから12秒後に発生した交通事故につい  
て、被告人は赤色表示に気付かないまま被害者に気付いたとの事実を認  
定した刑事判決（大阪高裁令和2年7月3日判決，甲46）があると指  
摘する。

25 しかしながら、同判決の事案は、被告人の対面信号機が赤色表示にな  
ってから12秒経過し、交差道路の信号機が青色表示になってから8秒  
経過した後に発生した交通事故につき、赤色信号を殊更に無視したとし

て危険運転致死傷罪を主位的訴因として起訴されたものである。同判決は、赤色信号になってから12秒も経過していれば、交差道路は青色信号になっていて、当然走行する車両や歩行者が予想されるから、交差道路の交通状況に注意を払うのが通常と思われるのに、被告人は、その点の注意が疎かとなって交通事故を惹起しているとみるべきである（そのような重大な見落としをしたことの事情として、余命数か月との宣告を受けた弟の病状を考えていたためであるという一応の説明は可能である。）とした。

他方、本件交通事故は、本件交差点が赤色信号を表示してから3秒程度とほぼ全赤の範囲内で発生しているのであって、交差道路の交通事情について考慮すべき程度は顕著に異なるので、本件とは事案を異にする。

(カ) 以上によれば、原告の主張を検討しても、原告の捜査段階の指示説明や供述の信用性は高いというべきである。

### 3 争点1（危険運転致傷罪に当たる行為の有無）について

#### (1) 原告が「赤色信号…を殊更に無視し」といえるかについて

ア 自動車運転死傷行為処罰法2条5号にいう「赤色信号…を殊更に無視し」とは、およそ赤色信号に従う意思がないものをいい、赤色信号の確定的な認識があり、停止位置で停止することが十分可能であるにもかかわらず、これを無視して進行する行為がこれに含まれる。また、赤色信号であることの確定的な認識がない場合であっても、信号の規制自体に従うつもりがないため、その表示を意に介することなく、たとえ赤色信号であったとしてもこれを無視する意思で進行する行為も、これに含まれると解される（最高裁判所平成20年（あ）第1号同年10月16日第一小法廷決定・刑集62巻9号2797頁参照）。

イ(ア) 本件についてこれをみると、原告は、本件停止線手前約21.2mの地点において、本件信号機が赤色信号を表示しているのを視認し、これ

に気付いたのであるから（前記2），この地点において本件信号機が赤色信号を表示していることを確定的に認識していたといえる。

そして、その時の原告車の走行速度は、時速約19kmであったところ、走行速度を時速20kmと仮定した場合の、本件道路のような乾燥したアスファルト路面における自動車の停止距離は、空走時間を0.75秒と仮定した場合又は原告が主張するように原告が[REDACTED]ため空走時間を約2秒と仮定した場合のいずれであっても、計算上、4.17m又は11.12mにとどまっており（前記認定事実(5)），本件停止線までの距離である約21.2mを相当程度下回っている。

そうすると、原告には、本件停止線手前約21.2mの地点において、本件信号機が赤色信号を表示していることの確定的な認識があり、その地点において制動措置を講ずれば、本件停止線手前で停止することが十分可能であったといえる。

したがって、原告は、本件事故において、「赤色信号…を殊更に無視し」たといえる。

(イ) 本件停止線手前約21.2mの地点における原告車の走行速度が時速約19kmであることは、前記のとおり、ドライブレコーダーの表示速度(甲10写真番号2参照)によって認定することができるものである。

その点を措き、甲10添付の写真番号2のドライブレコーダー画像が示す地点（甲13現場見取図の④地点）における原告車の実際の走行速度に原告が主張するような表示速度のずれが生じたため、ドライブレコーダー（甲10）に表示された原告車の速度である時速約19kmが、実際は、それより1秒程度前の時点における原告車の速度であり、それゆえに上記地点における原告車の実際の速度は、上記表示速度よりも多少速かった（前記認定事実(2)のとおり、原告車は順次加速していた。）と仮定しても、原告車の本件事故に至るまでの最高速度が時速約22k



mにすぎないから、甲10添付の写真番号2の地点（甲13現場見取図の④地点）での速度がこれを超えることはない。更に仮定を重ね、走行速度を時速25kmとした場合の自動車の停止距離は、計算上、8.72m（空走時間を0.75秒とした場合）又は17.39m（空走時間を2秒とした場合）にとどまっており（前記認定事実(5)）、甲13の現場見取図の④地点から本件停止線までの距離である約21.2mを相当程度下回っている。

これらによれば、原告の上記①②の主張を踏まえても、前記(ア)の認定、判断は左右されない。

(2) 原告が「重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転」したといえるかについて

ア 自動車運転死傷行為処罰法2条5号にいう「重大な交通の危険を生じさせる速度」とは、赤色信号を殊更に無視した車両が、他の車両と衝突すれば重大な事故を惹起すると一般に認められる速度、又は、重大な事故を回避することが困難であると一般に認められる速度を意味するものと解される。

イ(ア) 本件についてこれをみると、南北道路や南北道路東側歩道には相応の交通量があることがうかがわれ（前記認定事実(1)ア）、本件道路から南北道路及び南北道路東側歩道の見通しは悪く、本件停止線付近までに至らないと南北道路東側歩道における歩行者や自転車の有無を確認することが困難である（前記認定事実(1)イ）ところ、本件停止線から、南北道路東側歩道の延長線上に設置された本件横断歩道までの距離は約2.6mである（前記認定事実(1)ア）。時速20kmの自動車の停止距離は、計算上、6.42m（空走時間を0.75秒とした場合）であることからすると（前記認定事実(5)）、上記のような状況の本件信号機が設置された本件交差点内に、時速約22kmで自動車を進入させた場合、同自

動車の運転者は、歩道上の歩行者や自転車の動静に即応して、急制動を講じたとしても、歩行者や自転車との衝突を回避することが困難である。そして、時速約22kmの速度で走行する自動車と、歩行者や自転車とが衝突すれば、重大な事故が生じる可能性が一般的に高いといえ、実際、  
5 本件事故により、本件被害者は、自転車もろとも転倒し、

という傷害を負うに至っている（前記前提事実(2)、前記認定事実(3)）。これらの事情に照らせば、本件交差点に進入する直前の時速約22kmという速度は、赤色信号を殊更に無視した車両が、他の車両と衝突すれば重大な事故を惹起すると一般に認められる速度、又は、重大な事故を回避することが困難であると一般に認められる速度であるといえる。  
10

したがって、原告は、本件事故において、「重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転」したといえる。

(イ) 原告は、本件事故の発生場所は青色信号に従って直進する車両は自転車しかいない横断歩道であるところ、時速30kmで走行する車両にはねられた歩行者の90%は生存すること等に照らせば、横断歩道という具体的な場面に限っていえば、時速20kmの速度は「重大な交通の危険を生じさせる速度」とはいえない旨主張する。  
15

しかしながら、本件事故の発生場所を走行する車両が自転車に限られるとしても、自転車と時速約22kmで走行する自動車とが衝突すれば、自転車の運転者が自転車もろとも転倒したり、最悪の場合、そのまま当該自動車に轢過されたりしてしまうなどして、重大な事故が生じる可能性は一般的に高いといえることができる。また、仮に原告の主張するとおり、時速30kmで走行する自動車にはねられた歩行者の90%は生存  
20  
25 することができ、時速20kmで走行する自動車との衝突による衝撃等

は、より軽微なものになると考えることができるとしても、当該歩行者（自転車の運転者も含む。）が、上記のような態様の事故により、重い傷害を負う可能性は高く、そのような傷害を生ぜしめる事故は、重大な事故であると評価することができる。現に、本件被害者は、前記のとおり、本件事故により、自転車もろとも転倒し、[REDACTED]の傷害を負っているのであって、本件事故は重大な事故と評価されるべきである。

したがって、原告の主張は採用することができない。

### (3) 小括（争点1について）

以上によれば、原告は、本件事故において、危険運転致傷罪に当たる行為をしたといえる。

## 4 争点2（本件処分に裁量権の範囲の逸脱・濫用があるか否か）について

- (1) 法103条2項は、免許を受けた者が受けた者が、危険運転致傷罪に当たる行為をしたとき（法103条2項5号、自動車運転死傷行為処罰法2条（5号（人を負傷させた場合））の罪に当たるものをしたとき）等に該当することとなったときは、都道府県公安委員会は、その者の免許を取り消すことができる旨規定するところ、「取り消すことができる」という規定の文言に照らすと、上記免許を受けた者の免許を取り消すかどうかについては、当該都道府県公安委員会の合理的な裁量に委ねられているものと解される。もっとも、同条8項は、同条2項各号所定の行為をしたことを理由として免許を取り消したときは、3年以上10年を超えない範囲内で欠格期間を指定するものとする旨を定め、そのような悪質、危険な行為をした運転者をより長期間道路交通の場から排除することとしていることや、同項が適用される場合には、免許の効力を停止する処分を選択する余地がないこと（同条1項参照）に照らすと、法は、免許を受けた者が、危険運転致傷罪に当たる行為を含む

同条2項各号所定の行為をした場合には、その者の免許を取り消すことを当然に予定しているものと解される。

そうすると、法103条2項に基づく免許の取消処分が、その裁量権の範囲を逸脱し又はこれを濫用したものとして違法となるのは、極めて例外的な場合に限られるというべきである。

(2) これを本件についてみると、前記3のとおり、原告は、本件事故において、自動車運転死傷行為処罰法2条5号の罪である危険運転致傷罪に当たる行為をしたといえるから、原告の行為は、法103条2項5号に該当し、同項の規定が適用される。そうであるところ、危険運転致傷罪等の罪に当たる行為を、特に悪質、危険な行為類型と捉える法の趣旨（前記(1)）が、本件における原告の運転行為については例外的に妥当しないことを基礎付けるに足りる事情は見当たらない。

かえって、本件事故現場は市街地にある上、本件事故現場付近の本件交差点で本件道路と交差する南北道路は、合計5車線で車道と歩道が区別された幹線道路であり、南北道路や南北道路東側歩道の交通量は多いのであって（前記認定事実(1)）、本件事故現場が車両や歩行者の通行がおよそ想定されないような極端に交通量の少ない交差点でないことは明らかであることや、原告車が本件被害者自転車と衝突する直前（すなわち、原告車が本件横断歩道に差し掛かった時点）において、本件交差点における南北道路の信号機及び南北方向の本件横断歩道の歩行者用の信号機はいずれも青色信号に変わっていたこと（甲11、甲12の1、甲16（写真番号4）、甲17）に照らすと、本件における原告の運転行為は、まさに南北道路を走行する車両や本件横断歩道を通行する歩行者や自転車等との衝突等による重大な死傷事故を発生させる具体的な危険を有する行為にほかならず、実際、本件事故が発生したものである。

(3) 原告は、本件事故の発生には、本件信号機が赤色信号を表示しているとき

に道路の横断を開始した本件被害者にも一定の過失があること、原告車の走行速度は、仮に「重大な交通の危険を生じさせる速度」に当たる速度であるとしても、その下限に近い速度であること、

，本件事故に係る刑事処分は、

等に照らすと、

本件事故における原告の運転行為の実質的な危険性や悪質性の程度は著しく小さく、本件処分は重きに失すると主張する。

しかしながら、本件事故における原告の運転行為それ自体が重大な死傷事故を発生させる高度の危険性を有する行為であったことは前記(2)のとおりであり、被害者の横断態様や落ち度如何によって左右されるものではない。また、原告車の本件交差点に進入する直前の時速約22kmという速度は、前記3(2)イ(ア)のとおり、本件交差点の状況等に照らせば、赤色信号を殊更に無視した車両が、他の車両と衝突すれば重大な事故を惹起すると一般に認められる速度、又は、重大な事故を回避することが困難であると一般に認められる速度であるといえる。そして、免許取消処分の行政目的は、道路交通上危険のある運転者を道路交通の場から排除して、道路における危険を予防し、もって道路における交通の安全を図ることにあると解され（法1条参照）、免許取消処分は、過去の犯罪行為に対する制裁として行われる刑事罰とは目的も性格も異なる別個のものであることに照らすと、本件被害者の被害感情の緩和や、本件事故に係る刑事処分の内容は、本件処分が裁量権の範囲を逸脱し又はこれを濫用したか否かを左右する事情ではない。

(4) したがって、原告の主張を踏まえても、本件処分に裁量権の範囲の逸脱・濫用があると認めることはできない。

## 5 まとめ

以上によれば、原告が特定違反行為である危険運転致傷罪に当たる行為をしたことを前提に、前歴がない原告につき同特定違反行為に係る累計点数が危険

運転致傷等（治療期間 以上）に付される であることを理由にされ  
た本件処分（前記前提事実(4)ア）は適法である。

#### 第4 結論

よって、原告の請求はいずれも理由がないから、これを棄却することとして、  
主文のとおり判決する。

大阪地方裁判所第2民事部

裁判長裁判官

森 鍵 一

裁判官

田 辺 暁 志

裁判官

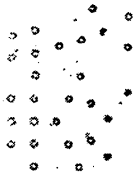
豊 臣 亮 輔

(別紙1)

指定代理人目録

稲井久志，嶋本正彦，瀬尾英之，中山加奈恵，内田直利

以 上



関係法令の定め

- 1 自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律（令和2年法律第47号による改正前のもの。以下「自動車運転死傷行為処罰法」という。）の定め

自動車運転死傷行為処罰法2条は、赤色信号又はこれに相当する信号を殊更に無視し、かつ、重大な交通の危険を生じさせる速度で自動車を運転する行為（同条5号）等を行い、よって、人を負傷させた者は15年以下の懲役に処し、人を死亡させた者は1年以上の有期懲役に処する旨を定めている。

- 2 道路交通法（以下「法」という。）及び道路交通法施行令（以下「令」という。）の定め

(1) 免許の取消しに関する定め

法(令和2年法律第42号による改正前のもの。以下、本条本項につき同じ。)

103条2項は、運転免許（以下「免許」という。）を受けた者が、自動車運転死傷行為処罰法2条から4条までの罪に当たるものをしたとき（法103条2項5号）等に該当することとなったときは、その者が当該同項各号のいずれかに該当することとなった時におけるその者の住所地を管轄する都道府県公安委員会は、その者の免許を取り消すことができる旨定めている。

(2) 免許を受けることができない期間に関する定め

法103条8項は、都道府県公安委員会は、同条2項各号のいずれかに該当することを理由として同項等の規定により免許を取り消したときは、政令で定める基準に従い、3年以上10年を超えない範囲内で当該処分を受けた者が免許を受けることができない期間（以下「欠格期間」という。）を指定するものとする旨規定する。

令38条7項は、法103条8項の政令で定める基準として、          において、当該特定違反行為に係る累積点数が別表第3の2の表の第1欄に掲げる区



分に应じそれぞれ同表の[ ]に掲げる点数に該当した場合につき、欠格期間を[ ]とする旨規定する。

(3) 特定違反行為をしたことを理由として処分を行おうとする場合における累積点数の区分

ア 「累積点数」とは、処分の理由となる違反行為（特定違反行為等をいう。）及び当該違反行為をした日を起算日とする過去3年以内におけるその他の違反行為（ただし、一部の違反行為を除く。）のそれぞれについて令（令和元年政令第108号による改正前のもの。）別表第2に定めるところにより付した点数の合計をいう（令33条の2第3項柱書き）。

イ 令別表第3の2の表に規定する「前歴」とは、累積点数に係る当該違反行為をした日を起算日とする過去3年以内において、違反行為をしたことを理由として法103条1項又は4項の規定による免許の取消し等の処分を受けたこと等に該当したことをいう（同別表の備考一）。

ウ 特定違反行為をしたことを理由として処分を行おうとする場合における累積点数の区分を定めた令別表第3の2の表は、第1欄に掲げる区分のうち「前歴がない者」に应じた[ ]を掲げている。

(4) 特定違反行為に付する基礎点数

特定違反行為（令別表第2の2の表の上欄に掲げる行為。令33条の2第2項1号柱書き。）の基礎点数について規定した同表（令和元年政令第109号による改正前のもの。以下、同表につき同じ。）は、危険運転致傷等（治療期間[ ]以上）（人の傷害（治療期間が[ ]）に係る自動車運転死傷行為処罰法2条から4条までの罪に当たる行為をいう（同表備考121）。）に付する基礎点数を[ ]と定めている。

以上

これは正本である。

令和3年10月29日

大阪地方裁判所第2民事部

裁判所書記官

河合 由

